

令和2年度「GKP広報大賞」エントリーシート

エントリーする団体名の名称 新潟市	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 遠山慎二・小柳琢利 新潟市下水道管理センター施設管理課 025-281-9202、025-284-5849、 shisetsu.ps@city.niigata.lg.jp
代表者氏名 新潟市長 中原八一	

部門名 行政 部門	事例名 公道で全国初！「しゃべるマンホール」社会実験 ～アルビレックス新潟の選手が意気込みを語る！！～
--------------	--

事例の概要
 マンホールの新たな付加価値（まちづくりへの活用や情報発信効果等）や耐久性を検証するため、公道では日本初となるしゃべるマンホールを民間事業者と共同開発して、新潟駅南口広場・万代口広場に設置する社会実験を行いました。デザインはサッカー J2 アルビレックス新潟が開港150周年にあわせて作成したオリジナルで、勝利に向けた選手の叫びが鳴り響く仕掛けを施しました。

期間 2019年7月26日（金）～8月30日（金） 音声は午前9時～午後9時	音声テーマ: J1昇格の意気込み (7種類)	音声テーマ: 新潟市のおすすめ (8種類)
1. 7月13日（土）開港マッチ（アルビレックス新潟vs横浜FC）にあわせて、7月11日（木）から7月23日（火）音声機能を付与せずに事前設置 2. 7月26日（金）新潟駅南口広場においてお披露目式典を実施	 新潟駅南口広場	 新潟駅万代口広場
仕様 マンホール蓋に人感センサーを設置して選手の声がランダムに再生		

ポイント1 企業と共同開発 マンホール蓋メーカーの日之出水道機器株式会社と新潟県に本社を持つ音響メーカーのウエタックス株式会社の3者で開発を行いました。	ポイント2 地域と連携 新潟港開港150周年記念事業実行委員会とサッカーJ2アルビレックス新潟と連携し、マンホール蓋のデザインや音声を提供頂きました。また、アルビレックス新潟の選手を招き、式典（7月11日）を開催しました。
企業 アイデア・フィードバック ↓ 製品・開発 新潟市	しゃべるマンホール蓋 
実行委員会プレスリリース 	アルビレックス新潟プレスリリース 
	別式典でのデザインお披露目 

ポイント3 マスコミにPR しゃべるマンホール設置日（7月26日）にマスコミ向けのお披露目式典を開催し、県内テレビ局全5社や新聞社4社から取り上げてもらいました。	SNS（県内有名「おが」）と連携 	地元紙で紹介 
しゃべるマンホールお披露目式典（県内テレビ局全5社集合） 	地元テレビ局で放送 	

エントリー事例の特徴

一般的に行政が行う広報は、「予算が少ない」・「どちらかといえば消極的」・「マンネリ化」というイメージをもたれており、民間企業と比べると予算も限られています。私たちが考えた広報の手法は、行政のみでは技術面や予算面などで実現が難しいことを、**地域の企業や団体と「連携」**することによりチャレンジし、その活動を**マスコミから取り上げてもらい**双方から発信することで、多くの方に下水道への関心を高めようことを狙いとしています。

このたびの市民に身近なマンホール蓋に音という新たな要素を追加した取組の効果として、54%の通行する人が立ち止まったもしくは振り向いたという結果が得られました。また、他事業や他業種と連携したことで、多くのマスコミから取り上げてもらい、多くの方が下水道という言葉にふれるきっかけづくりができたと考えています。

マンホール付近で立ち止まったもしくは振り回った人の割合（14:00～15:00）

通常のマンホール	7月6日（土）	0%
デザインプレートのみ	7月13日（土）	16%
しゃべるマンホール	7月27日（土）	54%

調査場所：新潟駅南口広場

付属資料の提出 あり ・ なし （どちらかに○）